



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.58

2017年7月1日発行

## 事務局ご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団  
事務局長 誉田 卓也

日頃は三井V-Netの活動に多大なるご理解、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

日本は現在、少子高齢化社会が加速化し、65歳以上の高齢者人口は3,461万人（平成28年9月総務省発表）で、総人口に占める割合は27.3%となっています。前年（3,388万人、26.7%）と比較すると、73万人、0.6ポイント増と大きく増加しており、人口、割合共に過去最高となっています。

三井V-Netは、日本社会が活力を保ち続け、国民生活を維持・向上させていくためには、高齢者が社会活動に積極的に参加し、活躍できる環境を創り出すことが急務との認識に基づき、平成8年に創設され、昨年の10月で20年の節目を迎えました。これもひとえに会員各位のご努力、ご協力、ならびに会員会社各位のご厚情の賜物であると、改めて深く御礼を申し上げます。

三井V-Netは現在、三井グループ運営会員各社（現行23社）のOB、OGを中心としたボランティア登録会員は1,510名を数えます。また昨年度は、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育の4分野において、三井V-net設立以来初めて年間活動人数が10,000人の大台を超え、延べ10,451名の方がさまざまな活動にご活躍されています。（いずれも平成29年3月末現在）

東京本部では、国際交流、医療・福祉分野に部会が設立され、各部会の代表である世話人を中心に、活動が実施されています。国際交流分野では、留学生のニーズに合った一対一交流の他にも社会見学、企業訪問、歌舞伎や能、文楽等日本の伝統芸能の鑑賞会、英語落語、書道教室など、様々な行事が企画され活動が活発に行われています。医療・福祉分野では、病院で



の外来受付案内のほか、エリザベス・サンダース・ホームでの月次清掃活動、11月に開催予定のチャリティーコンサートも引き続き継続してまいります。

関西支部では、昨年9月から大阪大学留学生ホストファミリープログラムへの参加を開始し、神戸大学では新たな取り組みとして、「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（G-Navi）」との連携により、企業訪問や社会見学を通じて留学生の視野を広げる活動への支援を開始致しました。また、文化活動として、昨年10月より、京都の重要文化財である旧三井家下鴨別邸での案内ボランティアを派遣しています。

中国支部では、永年にわたるボランティア活動に対し、今年1月に「環境美化永年活動10年表彰」を受けました。これは平成26年度の広島市社会福祉協議会会長表彰、平成27年度の広島市長表彰に続き3年連続の受賞となります。外郭団体との連携による社会福祉活動に積極的に参加し高い評価を頂いています。

平成29年度の取り組みにつきましては、①新規ボランティア登録会員の拡大②運営会員会社の拡大の2点があります。

まず、ボランティア登録会員の拡大ですが、今年度も三井グループ出身のOB、OG、その家族を中心に引き続き勧誘を図ります。また、長期的視野に立ち、定年を迎える少し前の比較的若い世代の会員獲得に注力致します。

運営会員会社の拡大につきましては、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休会会社への新規加入あるいは再加入の勧誘対策に積極的に取り組んでまいります。

三井V-Netとしては、今後ともボランティア活動の内容の向上及び活動頻度アップに努め、三井グループの社会貢献活動の一端を担い三井ブランドの向上を目指し努力してまいりたいと思いますので、引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますのご健勝、ご発展をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 本部（東京）

### 東大柏部会「3月バスツアー」

坂本 純一郎（登録会員）

冬枯れの樹木の隙間から青空に映える洗練された校舎群。平成29年3月8日、今回から3月平日開催に変更となり当日を迎えた。参加した留学生等は8ヶ国、31名。そして運営側は10名であった（KIO2名、学生ボランティア4名、三井V-Net4名）。柏部会は企画担当の幹事役が2名（含む小生）、当日の運営補助2名、そして車中の「お菓子パック」を女性会員有志が準備し、参加者全員に配布して貢献した。



グリコの工場に到着してまずは記念撮影

午前中は埼玉県北本市のグリコピアEASTを訪問。ポッキー・プリッツの原料混合から仕上・包装迄の生産ラインを見学した。その際は学生ボランティアが英語で逐次通訳し、留学生の理解を助けた。クイズあり、グリコのポーズが楽しめる写真スポットありと、遊び心満載で、楽しみながら日本のスイーツを再発見出来た。更に一世風靡した「おまけ」、食玩の展示を観ながら華麗なる歴史を辿った。

午後は小江戸・川越をグループで散策。蔵づくり・時の鐘を代表とする歴史的建物群とその風情は格別であった。また菓子屋横丁では食べ歩きしながら、専攻を超えた留学生の出会いや世代を超えたボランティアとの心の触れ合いが



小江戸の蔵づくり・時の鐘

あちこちで花を咲かせた。

私の当日の活動を少し。初対面の学生ボランティアと直ぐにアイスブレイク。軽妙な会話で場を和ませ、率先して緊張感をほぐす。親近感が生まれ、不安が期待に変わる。そしてチームワークに繋がる。終日良好な関係が築け充実感があった。また留学生には積極的に声掛けし、必ず「Please enjoy!」と添えた。楽しみながら英気を養うこと、最大のテーマだった。

車中で隣はインド学生。なんと今日が誕生日、SNSで200名のお祝いメッセージ。私も「Birthday Girl!!!」と贈り、嬉しそうに「Arigatougozaimasu」と返してくれた。私はインドの素食主義と宗教・カースト制度との関連を聞き、熱心に答えてくれた。彼女からはお勧めの日本文化を聞かれ、徳島の阿波踊りを動画で説明、基本形と音楽や衣装の特徴を紹介。彼女に笑顔が溢れ、是非訪問し経験したいと語ってくれた。至福の時間、多くの出会いの旅路だった。

### 英語落語鑑賞会を開催

宮田 哲（商船三井OB）

11月25日（金）午後5時～7時に東大柏キャンパス図書館棟メディアホールで英語落語会を三井V-Net柏部会主催、東大柏国際オフィス、図書館共催で開催しました。これは留学生に日本芸能のひとつである落語を紹介するということもありますが、むしろ落語を楽しんでもらいたい、日本にもこんなにユーモアの文化があるんだよと知ってもらおうという趣旨で開催したものです。



今回は観客として留学生、学生ばかりでなく教職員、研究者、図書館友の会会員、地域の国際交流協会の方たちに呼びかけましたが、東大柏・三井V-Netでは初めての試みであり、当初は参加者が集まるか、出演者が参加者が少ないと演技に熱が入らないのではと心配していましたが、関係各位の尽力で当日は80名強の人に参加していただきほっとしました。出演者は私も所属している東京英語落語かい枝会の皆さんにお願いしましたが、皆さんも当会開催の趣旨に賛同して下さい、仕事を持っている方も半日休暇を取り出演して下さい



ました。高座設営は、英語落語会の方が机を高座台としその上に赤い毛氈を敷き、背景には小粋な振袖を配し、あっという間に華やかな舞台が設営されました。

“What is Rakugo?”のアメリカ人と日本人のコラボによる落語紹介で幕が明け、その後はかい枝会のみなさんによる



英語落語が披露されました。演者は聴衆の反応の良さもあり熱演に次ぐ熱演で、留学生の中には涙を流して笑っている様子も見えました。閉幕後の出口でお客様を見送りましたが、留学生からも日本人の方からも一様に、素晴らしいentertainmentであった、皆さん素人なのですか？玄人かと思いましたよ、来年もお願いしますよとの嬉しい言葉をいただきました。

日本語での落語“長短”も一つ演じましたが、留学生からのアンケートによれば日本語はほとんど理解できなかったが演者の所作、表情で想像できたとのコメントをいただきました。落語は見る人の想像が重要なこと、人の感情は万国共通であるとあらためて認識させられ、落語をやるものとして励みになりました。

## 2017年日産自動車追浜工場見学

横浜国大  
 行世世話人 縄岡 修二 (三井物産 OB)

2017年1月9日に実施した日産自動車追浜工場見学の概要を下記の通り報告いたします。

今回の参加者は当部会員13名、留学生19名合計32名でした。留学生の国籍は韓国、中国を中心に9カ国と多岐にわたりました。

今回の特徴としては、去年は横国大を窓口にして一般留学生にも門戸を広げて募集したが、今年は部会員と部会員のパートナー留学生のみでの見学となりました。また昨年までは大学入試センター試験の前日(休校日)に行っていましたが、この日は日産の都合で見学時間や定員の制約があったために、初めての試みとして「成人の日」にしました。

見学人数が20名以上のため2組に分け、それぞれに英語の通訳をつけました。

### プログラム内容

09:30～10:00

同社活動概要のプレゼンテーション及び生産方式説明のビデオ

10:00～11:00

バスによる輸出専用埠頭他の施設見学(約20分)

徒歩による工場内生産ラインの見学(約40分)

※2組に分け順番を入れかえて見学

11:00～ Q&A

港湾施設見学では、輸出専用埠頭に自動車専用船が入港しており、積み込みの様子を見ることができました。主に北米に向けて輸出されています。今回は国内輸送用の埠頭には自動車運搬船が入港していませんでした。そのほか部品倉庫などもバスの中から見学しました。「同期生産」方式に基づき、顧客の注文内容は日産自動車本体だけでなく同時に外部の部品供給協力会社にも通知されており、生産計画に応じ、4日前に部品供給が行われています。1台の完成車は約2万5千から3万の部品から成り立っていますが、約70%を外部から購入しています。生産は2交替制ですが、外部からの部品供給は4時間毎24時間体制で、大型トラックで部品倉庫に供給されています。

バス見学のあと、徒歩で工場内の組立ラインの見学をしました。

工場内で見学したのは「トリム(組立)ライン」及び最終検査工程です。「トリムライン」では車体の溶接組立及び塗装が完了した後、シート、カーペット、ガラス、バンパー、インストルメント・パネルなど3,000点の車の内外装部品の取り付けを行う工程です。

見学は塗装後、ドアを一旦外す工程から始まりました。ドアを外す目的は、車内の部品取り付け作業がやり易いこと及びドアに傷を付けないようにするためです。

生産ラインに流されている車は「多車種同時生産方式」を採用しており、注文・納期順に違った車種(例えばガソリン自動車“ジューク”の次は電気自動車の“リーフ”)、同じ車種でも輸出向け・国内向けなど異なった仕様の車が同じ組み立てラインで流れてくるのは非常に興味深いものでした。

このラインでは、作業員の近くにそれぞれの車の仕様に合った部品が無人搬送車(AGV)で組み立てラインと同じスピードで運ばれてきており、必要な器具と共にすぐ手が届く位置に置かれています。作業員の無駄

な動きを省くことができます。

さらに、生産効率だけでなく作業員の負担を軽くする様々な工夫を見ることができました。例えば部品の取り付け位置・作業員の姿勢に合わせ、車体の高さを調節することができる専用の台車を使うこと、またコックピットモジュールなど重い部品の取り付けには「楽々ハンド」と呼ばれる装置を使うことです。このコックピットモジュールはメインラインのすぐ横のラインで部品会社により組立てられており、取付けのタイミングに合わせ、自動的に作業員の手に搬送されてくるよう設計されています。



さらに組立てラインの床は、以前は鉄板でしたが、現在は木製になっており、これも人間工学の面から作業員の身体への負担を緩和する目的があります。

留学生は、それぞれの工程の説明に、とくに組立ラインにおける様々な工夫に熱心に耳を傾けていました。ほとんどの留学生が初めて自動車生産ラインを見学して感銘を受けていました。

工場内の見学通路は狭く、通路のすぐ横を無人搬送車（AGV）が頻繁に行き来していましたが、留学生は注意事項をよく守り、今年も事故も無く見学を終了することができました。

日産の方には、参加予定者リスト提出の段階で定員40名をオーバーしていたにもかかわらず、快く引き受けて頂きました（実際の参加者は大幅に下回りましたが）。また見学時間も超過しましたが、留学生のQ & Aに丁寧に対応して頂きました。

最後に事務局を初め、様々な側面でご協力をお願いした部会員の方々に感謝いたします。

## 【見学留学生感想文】

### 人間と機械との協調によるモノづくり

横浜国大留学生 ジョン ミンジュ（韓国）

新年に入ってから約1週間が過ぎ、横須賀の追浜にある日産自動車の工場に見学しに行くことになりました。昨年、学校の授業の課題のために横浜にある他の日産の工場にも行ったことがありますが、そこではエンジンしか作られていなかったので車の全体的な組み立て方を見るのは初めてでした。参加者全員は朝早く追浜駅に集まり、三井V-Netのボランティアの方々の引率で工場に着きました。1階の展示場で自由に日産の様々な車やその作動原理を見た後、2階のホールで日産自動車と追浜工場についての簡単な説明を聞きました。その後、グループに分けられ別々のコースで見学を始めました。各グループでは英語の通訳をしてくれる方がいたので、日本語が分からない参加者も安心して見学することが出来ました。

私のグループはバスに乗りガイドさんの説明を聞きながら、まずは工場の外の様々な所を案内してもらいました。そこで、完成され日本国内のお客様への配達を待っている車や海外への輸出のために作られた車などを見て、私は日本製の車の世界的な人気に驚きました。バスツアーが終わった後、工場の中へ入り、歩きながらどのように車が作られているのかを見ました。

工場の中で私を最もびっくりさせたのは、スタッフと機械との調和でした。私は次第に機械化・自動化されてきている現代の社会では、機械の速さと正確性に追い付いていくことが出来ない人間はその役割が減少し、いつか人間の労働力は不必要になると思っていました。しかし、私が工場の中で見たのは少し違いました。思った通り、ほとんどの作業は機械がしていましたが、そこで働いているスタッフも少なくなかったです。さらに、車の安全性テストや最後の確認は人間がしていたので、その中で人間の役割も大きいということが分かりました。スタッフの方々は働きながら、作業が大変だった工程についてアイデアを出しあい、そのアイデアが実際に装置になった所もありました。それは、まるで人間と機械の相互共存を見ているようでした。

私がすでに述べたように、いつか社会の様々な所で人間の労働力を必要としない日が来るかもしれません。しかし、私が今回の工場見学を通して感じたのは、“人間が使うものを作るためにはまだ人間が必要だ”ということでした。人間と機械との協調によるモノづくりはこれからもさらに進むと思います。

## 2017年春 横浜国大会ウエルカムウオーク

横浜国大会 坂本 健 (三井物産 OB)

2017年4月入学の留学生を対象とする、ウエルカムウオークを4月8日に実施した。(横浜国大が主催、当部会が運営を担当)



桜木町駅前 集合写真

当日の参加者は、留学生33名、日本人学生のチューター3名、会員20名、計56名であった。留学生33名は昨年10月の参加者55名(例年10月の入学者が多い)と比較すると少ないが、昨年4月の参加者は17名であり、前年同期と比較するとほぼ倍増した。

留学生の出身国別人数は、中国6、豪州・韓国各3、米国・イタリア・フィンランド・マレーシア・台湾各2、英国・ドイツ・ベルギー・スイス・ブラジル・アルゼンチン・グアテマラ・アフガニスタン・インド・シンガポール・ウガンダ各1で18か国、1地域とほぼ全大陸にわたっていた。



日本丸前で

午後からは曇りとの予報を信じ予定通り催行した。途中赤れんが倉庫あたりで傘を必要とするほどの雨になったため、開港資料館で打切り、その先はオプションとするよう行程を変更した。

山下公園、中華街(大栈橋は割愛)へのオプション

参加者は30名で殆ど全員が最後まで歩いた結果となった。現在全国都市緑化よこはまフェア開催中で、山下公園はメイン会場の一つとして華やかな花壇で埋め尽くされていた。留学生も随所で写真を取り、大いに楽しんでた。最後に関内駅まで案内した約10名の留学生は途中の横浜公園で餅つき体験もでき、今回はいつにもまして楽しんでもらったようだった。部会参加者各位に感謝。

## 留学生との合同ミーティング

駒澤大部会世話人 鈴木 徹夫 (東芝 OB)

駒大部会の会員は毎年4月が来ると期待に胸が膨らみ、そわそわします。新交換留学生(以下留学生)との合同ミーティングがあるからです。通常大学は4月の第1週に入学式とオリエンテーションを行います。駒澤大学国際センターでは、毎年、留学生には大学のオリエンテーションの最後に今後の勉学、日常生活等をする上でサポートを行っている駒大部会の会員との合同ミーティングの場を設定しています。今年は4月7日(金)午前10時から駒大深沢キャンパスの教室にて実施しました。



グループミーティング風景

出席会員13名全員でテーブルを対面式に配置した後に、国際センターのスタッフに連れられた8名の留学生が入場、会員が大きな拍手で迎えました。

冒頭、世話人から歓迎の辞と三井ボランティアネットワーク事業団とは何か、どんな活動をしているかの説明を行いました。

次に会員が如何に留学生のニーズに応えられるかを1分間の自己紹介でアピール。少し気持ちがほぐれたところで、留学生が自己紹介。留学生からは「落語を聞きたい」、「古戦場巡りをしたい」、「神社検定試験を受けたい」、等々のユニークな希望が出され、座が盛り上がりました。また、7月までに予定している行事として、

「着物着付け体験」、「ホタル狩り」、「歌舞伎鑑賞教室」の説明を行事幹事から行いました。そして留学生の希望をもっと知るために、4つのテーブルに分かれてのグループミーティングに移行しました。



桜満開の中庭での集合写真

4つのテーブルとは、【A. 日本語能力試験の受験指導希望】、【B. 日本語レベルアップ指導希望】、【C. 日本の伝統文化を知りたい】、【D. 日本の現代文化を知りたい】の4つです。留学生が興味あるテーブルに分散し、それぞれのテーブルについての会員と和やかなミーティングが行われました。複数のテーブルに行きたい留学生のために、20分でチェンジ出来るように合図し、3セッションを行いました。教室での作業はこれで終了し、折しも桜が満開の中庭に出て全員の集合写真を撮って解散しました。留学生には交流申込書を手渡し、希望者は国際センターに提出するよう説明。何人が交流希望を出してくれるか期待と不安を感じながら1週間後の締め切りを待つこととなります。

## 江戸東京博物館 「ときめき着物体験」に参加して

駒澤大部会 横山 美代子（三井物産 OG）



芝居小屋 中村座前にて

4月22日に交換留学生(以下留学生)7名、ボランティア会員6名、総勢13名で江戸東京博物館の「ときめき着物体験」に参加しました。

日本文化に興味のある留学生は江戸城模型や徳川家の家系図や神田明神の山車等、時間を忘れて熱心に見学していました。

博物館の展示はとても分かり易く、芝居小屋中村座などはスケールも大きくて圧倒されます。その中にある日本家屋での着物体験は「タイムスリップして江戸時代に来ちゃった!夢を見ているみたい!」という素敵な気持ちを味わうことが出来ます。

また、今年は「男性用の袴を着用してみたい」という希望が叶って「一生一度の貴重な体験が出来たかも!」という女子留学生もいました。江戸東京博物館での着物体験は江戸の風景とマッチして夢と希望溢れる素晴らしいものなのでチャンスがあれば来年もまた参加したいと思います。

今回の着物体験に参加した留学生「キム スヒョン」さんが流ちょうな日本語で素晴らしい感想文を寄稿してくれました。大変な勉強家でよく日本の文化他、幅広く勉強されています。本ニュースレターでは紙面の都合で感想文を相当割愛させていただいての掲載となりますが、V-Netのホームページには感想文全文を掲載する予定です。ぜひご覧いただければと思います。

## 両国・江戸東京博物館を訪ねて

駒澤大学交換留学生 キム スヒョン（韓国）

ロンドンへ行ったら大英博物館に。パリへ行ったらルーブル美術館に。東京へ行ったら展覧会に!そんなんです。日本では日本独特の期間限定の企画展が多く、これは外国人から見たら、実験的な芸術活動がおこなわれているように見えます。

ところで、なぜ日本はイギリスやパリのようにテーマが決まった展示館ではなく、様々なテーマを企画する場所を総称して'展覧会'という言葉が使われたのか?

それは恐らく、作品、遺物に関して海外と頻繁な交流によって日本人の興味対象の変化が速くなっているほかに、秋の紅葉と落ち葉のように永遠より瞬間の美しさ、その期間でなければ見られないものに美学を置いている日本独特の感性が反映しているのではないかと思います。

幸い今回の江戸東京博物館の展示は常設展示でした。さらに着物の体験まで!うちの交換留学生たちは

興奮の高まりを覚えていました。

三井ボランティアの方々と一緒ならこのような幸運がいっぱい。幸せ！

展示で感銘を受けたのは大まかに三つあります。それは「着物の体験」、「江戸時代の大衆の食べ物」、「火災と火消し」です。

博物館で着物体験イベントに参加、日本に来て初めて格式を備えた着物を着てみましたが、とても楽しかったです。それから、男性の着物を着て待のように堂々と立って写真を撮った友達もいました。博物館内には多様な文様の刺繍が入った着物が展示されていました。特に歌舞伎劇場の俳優が着た遊女の着物が圧巻でした。本当に華美で美しかったので、しばらく立ち止まって見つめていました。

着物体験の後は、江戸時代の食べ物文化の展示、江戸の消防文化展示等々を見て歩き、本当に有意義な一日を過ごすことができました。



感想文筆者 キム スヒョンさん

## エリザベス・サンダース・ホーム園内清掃 オリジナルTシャツでの実施と 感謝の会への参加

湘南倶楽部世話人 石渡戸 征治 (三越 OB)

湘南倶楽部では3月11日(土)大磯のエリザベス・サンダース・ホームで定例の園内清掃活動を行いました。好天に恵まれ三井V-Net会員と、活動に協賛してほぼ毎回参加してくれる東芝エレベータの現役社員合わせて約40名が参加されました。当日が6年前の東日本大震災の日と重なったこともあり全員で黙祷を捧げてから作業に取り組みました。1万坪の敷地には巨木が数多く、その落ち葉の量は半端ではありません。その他、小枝の剪定や草取り、自転車パンク修理など作業内容は盛り沢山でかなりの重労働です。子供たちも一緒に



三井 V-Net Tシャツを着用しての集合写真

なって枯葉を集めたり、リヤカーを押したりと手伝ってくれ会話を楽しみながらの作業はとても疲れを癒してくれます。

今回は念願の三井V-NetのオリジナルTシャツが出来上がって初めての活動となりました。鮮やかなフレッシュグリーンに黄色の三井V-Netの文字が映えます。Tシャツパワーで元気をもらい作業にも力が入ります。約1時間30分の作業でしたがトラックにいっぱい枯れ葉が積み込まれ園内の環境美化、保全に大いに貢献することが出来ました。作業終了後の昼食会では各班のリーダーからユーモアあふれる作業報告で盛り上がり、会員同士の懇親を深めることができました。

また翌日の12日(日)にはホームの子どもたちが日ごろから支援してくれているグループの方々を招待して「感謝の会」が開催されました。広場では焼きそば、から揚げ、ケーキなどの模擬店が並び子どもたちと一緒にランチを楽しみました。その後、ホームから巣立っていく4名の卒業生から感謝のスピーチのあと、子どもたちからダンスや寸劇など一生懸命演技が披露され心温まる1日を過ごすことができました。

## 日本赤十字社医療センターで三井 V-Net 会員が 20 年、15 年永年活動表彰される

本部事務局

平成29年3月21日(火)、日本赤十字社医療センターにて平成28年度ボランティア総会が開催され、永年に亘りボランティア活動をされている方々に幕内雅敏院長より感謝状が贈呈され謝辞の挨拶がありました。日赤医療センター全体の授賞対象者は29名でした。(25年以上1名、20年以上2名、15年以上7名、10年以上14名、5年以上5名)

この度三井V-Net活動会員2名が表彰を受けられました。



20年以上活動表彰 金色有功章：田村泰司様(写真左)  
15年以上活動表彰 銀色有功章：最上 徹様(写真右)

田村様、最上様はそれぞれ20年、15年の長きに亘り1階の総合案内付近で外来患者さんへの再来機の操作・診療科の案内・車椅子の補助・会計機の操作等のボランティアをされております。

表彰式後半、会場の皆様を前に田中法子様による「代表者による活動報告」があり、外来患者さんとの苦労話を披露されました。



活動報告をされる田中法子様

表彰式終了後、場所を移し院内にて病院関係者とボランティア会員との懇親会があり、皆様和気あいあいと歓談されておりました。

#### 田村 泰司 様(三井住友銀行OB)

ご自宅から近いとは言え早朝7時半頃から外来用車椅子タイヤに空気を入れて活動開始。受付職員の皆様より感謝のお言葉を戴いているとのこと。

20年目標に毎週火曜日ボランティア活動をしてきた院内案内を自分の言葉でご案内できる日まで今度は25年を目指し継続して行きたいと、新たな目標をしっかりとしたお声でお話しされました。

#### 最上 徹 様(日本製鋼所OB)

日赤本社で医療翻訳業務をしているが医療センターで来院者受付対応に外国語のできる人をご友人から招聘され今に至っているとのこと。「弱っている人、困っている人、病んでいる人に少しでも優しく手を差し伸べる」を胸に活動されてきたそうです。

振り返ると医療センターで15年の時間がたつたのにこやかに話しされておりました。

ボランティアの皆様は来院の方や患者さんをはじめ病院関係者からも信頼されているとのこと。今後の一層のご活躍を期待します。

## 関西支部(大阪)

### 日本語と英語で一对一の草の根交流

川勝 博史(登録会員)

三井V-Netより台湾からの留学生古益安(ク・イアン)さんを紹介していただきました。現在、神戸大大学院経営学研究科の2年生で、趣味は卓球と神社のお守り収集です。お守りを買集めるほど日本の文化や社会に興味を持っています。

交流活動の進め方としては、週1回くらいのペースで、新聞や台湾についての本(例えば『台湾』若林正文 ちくま新書)などを題材にして様々なことを話し合ったり、授業や研究内容、また日常生活について質問しあったりしています。



オリエンタルホテルで古さんと筆者(右側)

授業内容について、サステナビリティ(企業の経営持続性)のことを説明してくれたこともありました。

感心するのは、疑問点があると、いつも携帯しているスマホやノートPCで即座に検索をして、画像や説明を提示してくれることです。



大学国際教育総合センターにて古さんとお母様

彼の希望は、日本のことばと文化を知ることなので、できるだけ日本語を使ってもらい複雑な内容の場合は、英語でも補うことによって、よりスムーズにコミュニケーションを進めています。

活動の場所は、主に大学の国際教育総合センターのラーニング・コモンズ・ルームですが、

外に出かけることもあります。私の家族も一緒にホテルのイベントに参加しケーキをたべたり、尺八の演奏会を鑑賞したりもしました。春休みの間に台湾からお母さんが訪日された折、大学で交流時に紹介してくれました。

いつも笑みを絶やさない方で、それが古さんと似ていると感じました。「一緒に新聞を読んでいます」とお話しすると、「日本語が上手くなりました」と喜んで下さいました。交流活動をしていて大変嬉しいと感じる瞬間です。古さんは日本と台湾の違いを実感することもあるようですが、そんなことも話題にしながら交流を深めていきたいと思っています。

## 「中国」を教える？

神谷 周孝（登録会員）

「反日・抗日」教科書で今も教育されている中韓の若者に、どう正しい「日本観」を理解してもらえるのか・・・それが留学生の交流に参加した私の願いだった。戦争体験者どころか、戦後の「焼け跡」世代も徐々に消えて行く時代の流れ。

米軍の脱脂粉乳で飢えを癒し、平和の尊さを身をもって学んだ我々日本人の愚直な生き様<sup>ごま</sup>を一人でも知ってもらえたら・・・との思いからだった。



路さん家族と筆者（右端）

中国の古都、洛陽近くで育った同志社大3回生の路君は日本語べらべら、優秀で、将来性のある青年だ。ただ、学校で書道を習ったこともなく、論語の孔子や孟子についても歴史でしか学んでいない、と聞いて驚いた。多くの仏教寺院が破壊され「5千年の文化はどこへ行った？」と疑問を覚えた。

早速、路君への文化指導から始めた。京都・大覚寺での写経で般若心経を筆書きさせ、比叡山延暦寺で「千年の法灯」を見学させた。

「2千年も前から日本は遣唐使などで中国の文化を

必死に吸収し、それを守って来たんだよ」「論語や五経、大学などが江戸時代も寺子屋で子供たちに教えられた」

路君は感激した。日本のお年寄りから中国の文化、思想を学ぶとは思ってもいなかったようだ。正月には自宅で日本のおせち料理と一緒に味わった。

以前、飲食店の社長から「中国のバイトはミスしても絶対謝らず弁明ばかりする」と聞いていたのでぶつけると、路君は「自分が不利になると仕事もクビになるから」と答えた。



筆者奥様と路さん

両親が若い世代に起きた文化大革命で、知識人が紅衛兵に修正主義者として連行され、罪を認めた者は肅清されたという恐怖感が身についているようだ。また、13億社会で頭角を現すには能力も目立たなくてはならない。友人関係やゼミでも目立

ちすぎて四面楚歌になることもある、と嘆いていた。目立たず、周りを絶えず気にする日本風土にも文化ショックを受けて悩んだ時期もあった。「どうしたら日本の友達が出来の？」と真剣な表情で聞かれた時は、古いけど与謝野鉄幹の「人を恋うる歌」を教えた。「友を選ばば書を読みて六分の侠気、四分の熱」と。勉学に熱心で自分のために侠気を出してくれるのが本当の友だ。路君は「侠気」をノートパソコンで調べて、うなずいた。

ご両親が京都に遊びに来られた時も一緒に食事をしたが、まだ40代の若さで、路君は私の孫ほどの年齢だ。「一人っ子政策」で一粒種を日本に送って仕送りを続けるご両親の期待と不安が、中国語の通訳（路君）付きながら痛いほどわかった。

今後、路君は就職の準備活動に入る。政治問題も尖閣、南沙諸島も十分、お互いに議論しなければならない。北朝鮮の核問題、韓国の慰安婦、中国の抗日宣伝などから日本政府の右傾化も心配され、事態はますます複雑に流動しつつある。国際社会に通用する有能な人材としてどう育ってくれるのか？定年後の老人に出来ることは限られている。今後の挫折を慰めるだけかも知れない。一緒に世の不条理に涙を流すだけかも知れない。でも日本のこうした留学生交流が心の支えになった、「じいちゃん」は好き、日本も好き、と中国の「孫」に思われたら本望ではないか。

## 神戸大学医学部附属病院 グリーンボランティア

川崎 由紀子

追加補足：長岡 和子（三井住友海上OG）

### ★花壇を作ろう！

2017年1月8日（水）今年の活動初日、「新しい花壇」作りに着手。病院の西、バス道と建物の間にあるスペースを耕して花壇にする計画です。長い間雑草に覆われていたので土は固く、草や木の根が埋もれていて大変！



筆者（左端）と長岡様（右から3人目）とボランティアの皆様

幸いな事にこの日は力仕事ができる男性がいたので、土を掘り返す作業は大いにはかどりました。

その後、「土地の測量」をしたり「植栽計画」を話し合ったり…。それと並行して耕す作業を何回も。木々や草の根だけではなく、砂利、陶器や瓦の破片などが埋まっていたのは震災後の瓦礫を埋めたのかも知れません。もう、あれから22年…。

2月中は「耕す」作業が続き、3月になるとレンガ購入→レンガ積み→土や肥料を入れて耕すと進み、そして4月3日（月）、いよいよ植物の植え付けです。メンバーが持ち込んだ宿根草や樹木の苗が12種類ありましたが、1年草を加えて華やかにしようと、数人で三宮のガーデンショップへ出向き、魚竜梅やペチュニア、カラーリーフなど購入した後、大きく3つのブロックに分けた花壇に植え付けて「花壇」が完成!!これからどう育ってくれるか楽しみです。

2か月余りで新しい花壇が完成したのは、メンバーの頑張りと共に人数も大いに関係あり、最初の頃は4人だったのが、6人になり、今では10人に増えました。6人の時には「玄関前」「東」「病棟前」の3か所位しか手入れが出来ず、不完全燃焼気味で維持管理するのが精一杯でした。が、今では「南・西」「バス停横」「紫陽花街道」など6か所と活動範

囲も広がり、花の数も増えて、手入れも行き届くようになりました。通りすがりの方々からも良く言葉を掛けられ、「花が持つ癒しの力」を実感する日々です。

新しい花壇は歩道と同じ高さにしたので、間違っ

て踏まれたり、珍しい花がごっそり消えたり、とちょっと寂しい気分になる時もあります。でも、これからも、来院される方々が癒され笑顔になれるような、又、通りすがりの方々に足を止めホッとさせるような花壇を目指し、みんなで楽しく前向きに活動していきたいと思



病院内新花壇

## 奈良国立博物館でのボランティア

田中 隆（三井物産OB）

奈良国立博物館には、なら仏像館、青銅器館、東・西新館がありますが、ほぼ仏教美術に特化した博物館と言えます。ボランティアは3年毎に募集され世界遺産、解説、サポートの3グループがあります。それぞれ50名の募集です。

私は世界遺産グループに所属し、主に奈良市の小学校5年生の世界遺産学習プログラムに沿い、講堂でのスライド、展示会



講堂で解説中の筆者

場での解説を担当しています。最近是他府県からの小学校～高校・大学生も数多く来館され内容を少しアレンジして対応しています。

解説グループは館内で一般客対象の解説、サポートグループは渉外及びボランティア・メンバー向けの会社で言う社内報の作成などを担当しています。

ここでのボランティア活動は国立博物館の一員として来館者に接するため、一定レベル以上の知識が要求されます。従って、数多くの研修が実施され、ま

た自習やチームごとの自主学習も必要です。研修では同館の研究者から高レベルの講義を受ける事ができ、同館で開催する展覧会の図録等資料も提供され、歴史や仏教美術に関心のある方には最適なボランティアです。



東新館 外観

ボランティアの特典として東京、京都、九州の国立博物館の常設展が無料で見学できます。先日東京に行った際、上野の東京国立博物館に行きましたが、こちらは仏教美術以外の考古から中世の刀剣等幅広く展示されている半面、仏教美術に関しては奈良の方が内容が豊富で分かりやすいと思いました。

毎年秋には「正倉院展」があります。曜日ごとに担当チームを決め、講堂で「正倉院展の見どころ」を会期中毎日解説します。こちらもかなりの事前学習が必要で実際の活動日前は結構忙しいです。

ボランティア活動にはそれぞれ楽しい事も大変な事もあります。歴史や仏教美術に関心のある方は一度挑戦してみたいかと思いますが、ボランティアの中には東京、名古屋など遠方からわざわざ来られている方もいらっしゃいます。



仏教美術資料研究センター 外観

## 第6回神戸マラソン ボランティアに初参加して

松本 茂夫 (登録会員)



生憎の曇り空であったが、私たち三井V-Net13名は、8時10分に阪神西元町駅出口付近に集合した。

担当するエリアは、スタートから2km地点の「三宮・兵庫ブロック10区」。神戸市役所前をスタートし、

三宮を後に、西に向い、元町を過ぎて神戸駅に近くあたりで右折して100mほど北進、今度は左折して再び西にカーブする地点である。

そして、私たちが活動する業務内容は、①一般通行者がコースへ進入することを阻止し、コース運営の安全を図る等を行う「自主走路員」、②コース上にてランナーへのトイレ案内や混雑時のトイレ待ち列整理等を行う「ランナーサポート」である。(スタート地点は、2万人のランナーで混雑していてトイレに行けない人が多くいるためだそうだ)。

さて、朝礼での確認作業が終わり、私は「自主走路員」を担当することになり、定位置に着いた。8時50分、交差点付近の車道や歩道など全ての信号機が一斉に赤に変更された。と同時に、付近で待機していた警察官や警備員と一緒に車道に出て、私たちは赤色三角のコーンとその上にバーを2m間隔で道路を塞ぐように手早く並べ、ランナーの到着を待った。

9時6分、招待ランナーらの先頭集団が現れた。やはり速い!ところで「自主走路員」は、ランナー通過時は、基本的に歩道の観客の方を向かなければならないのだが、私の指定位置が交差点の車道の真ん中で、付近に観客がいないこともあって、主としてランナーに進行方向を指示したり、笑顔で応援したりしていた。

今回、2万人の市民ランナーが、老若男女を問わず、実に楽しそうに走り、また、障がい者ランナーや伴走者へ沿道から多くの拍手が送られ、自然と心が暖かくなった。

今回は、できればランナーとして、でもボランティアとしても参加したいと思った。

約2時間の活動が終わるころ、雲の切れ目から薄日が差してきた。



## 関西サロン特別企画 『旧三井家下鴨別邸への誘い』開催

関西支部事務局

2011年10月に関西支部が開設した“関西サロン”は、会員間の交流促進と三井V-Net活動の活性化を図る趣旨で、当初はもっぱら会議室での情報交換会でしたが、2013年10月の神戸市立博物館を皮切りに年1回程度、ボランティア活動先の現場として種々博物館等を見学することにより、新たなボランティア活動者の募集促進に寄与しています。



情報交換会風景

2017年3月24日（金）にはボランティア会員33名が、昨年10月に公開され、京都の新たな観光名所となった重要文化財『旧三井家下鴨別邸』を訪問しました。

まず主屋2階座敷にて素晴らしい庭園を眺望しながら京都泉仙の仕出し弁当による昼食会を開催し、交流を図った後、ガイドさんに三井家の歴史、旧三井家下鴨別邸の見どころ等を説明していただき、引

き続き1階座敷、庭園等を見学しました。

1階座敷では和菓子付き抹茶（500円）が大人気で庭園を眺めながら楽しむ方も多く、最後に再び主屋2階座敷にて情報交換会を開催し、日々のボランティア活動についての意見交換を行いました。参加者からは、「三井家ゆかりの施設を見学できて大変よかった」「いずれボランティアに応募してみたい」等の感想が聞かれ好評でした。



大正硝子を通した庭の眺め



主屋をバックに集合写真

## 中国支部（広島）

### 福祉活動体験学習サポーター 養成講座に参加して

中国支部事務局

このたび広島市社会福祉協議会が取り組んでいる「やさしさ発見プログラム事業」の一環で開催された「高齢者理解編」の講座に三井V-Net中国支部から事務局と会員の方2名の計4名で参加しました。この事業は体験を通して共感し新たな発見から「ほっとけん」気持ちになってもらい広島を誰もが住みやすい町にしていこうという狙いで、学校、企業、団体を対象に広めていくためのサポーターの養成講座で、まさに高齢化社会を迎えた日本の情勢にマッチした働きかけだと思いました。講師から日本の高齢化の現状を再認識するための講義を聞き

ながら「高齢者疑似体験セット」を身につけ、実際にビル内外に足を運んで体験する内容でした。年老いた体を体感するため、かなり負担となる重りのついたベストや靴、膝関節がスムーズに動かないようにするマジックテープ、白内障を患った目を模擬した眼鏡をかけ杖をつきながら二人1組で交互に体験しました。ビル内ではトイレを使用する場合を想定して案内板などの字の色、大きさ、照明度合いによる判別の違い、ウォシュレットの操作可否、エレベータの使用、ビル外での階段の上り下り、実際の歩行ルートを、疑似セットを付けて体験してみて予想以上に恐怖感、苦痛を感じ、通常普通にできる行動ができないもどかしさを強く感じることができました。もっと多くの人に疑似体験をしてもらい近くに困ったお年寄り、身体障がいの方がおられた場合は、まず声掛けし手を差し伸べる気持ちを行動にできる人が多くなれば今以上に住みやすい広島になると思います。



## 2017 ひろしまフラワーフェスティバルのボランティアについて

中国支部事務局

今年も5月連休の3日から5日の3日間は、広島最大のイベントである「ひろしまフラワーフェスティバル」が盛大に開催され、41回を迎え延べ154万人



の人出となりました。毎年このフェスティバルには広島福祉団体が参加しており、初日の広島平和大通りでのパレードを初め平和公園近隣にて「ふれあい広場」と称して出店、ステージがセットされています。そのお手伝いを毎年、広島市社会福祉協議会のコーディネートで当支部もボランティア活動に参加しています。今年は特に高校生、大学生のボランティアの参加の申し入れが多くあり、当支部からは「ふれあい広場」での支援活動と車いす介助ボランティアに2名の参加となりました。



## 事務局便り

### 2016年 一木会例会の行事報告

東京本部事務局

三井V-Netのボランティア会員が一堂に集う一木会例会は、年4回1、4、7、10月に開催しています。

例会では事務局報告、各部会報告(1月だけは理事長新年挨拶に変更)、講演を行い、終了後には親睦会を行って会員同士の交流を深めています。

2016年の一木会例会の概要は以下の通りです。

#### 【1月例会：1月14日 三井住友海上ビル】

- ・藏本理事長新年挨拶
- ・事務局報告
- ・講演

「留学生は「空気」を読めるか：日本人に関わるための日本語を考える」

講師：神田外語大学  
サウケン・ファン教授

講演概要：

神田外語大学のサウケン・ファン教授が「留学生は「空



気」を読めるか：日本人に関わるための日本語を考える」と題して、外国人留学生が日本語を覚えていく中で体験する様々な問題点、課題、日本独特の言語文化などを、身近な実例や国際コミュニケーション専門家の立場から言語管理理論の紹介なども交えてお話しされました。

**【4月例会：4月21日 商船三井ビル】**

- ・事務局報告
- ・部会報告 東大柏部会（近藤幹事）
- ・講演

「魅力的な文章はこうして作られる」  
 講師：脚本家・小説家 東多江子氏  
 講演概要：

脚本家・小説家の東多江子さんが、「魅力的な文章はこうして作られる」と題して、ネット上でのコミュニケーションが増えてくる中で、伝えたいことを的確に表現する文章作りがますます大切になっていることを指摘。魅力的な文章のために説明と描写、繰り返し・重複、比喩・言い換えなどの手法を上手に使うことが必要と、具体的な例を交えて講演されました



**【7月例会：7月7日 東芝ビル】**

- ・事務局報告
- ・部会報告 横浜国大部会（八木幹事）
- ・講演

「航空機開発の歴史と日本での研究開発事例」  
 講師：JAXA 河内理氏  
 講演概要：  
 JAXAで長年にわたり航空機関係の品質管理に携わった技術者の河内理さんから、「航空機開発の歴史と日本での研究開発事例」と題して、人が空を飛ぶことを



夢見た大昔の時代から最近の高性能機の開発に至るまでの航空機開発の歴史、日本における初期の航空機開発、講師も参加した最近の超音速機の飛行実験事例などがわかりやすく、かつ楽しく紹介されました。

**【10月例会：10月27日 商船三井ビル】**

- ・事務局報告
- ・部会報告 駒沢大部会（中島幹事）
- ・講演

「映画をとおしてみるシンガポールの社会」  
 講師：立教大学アジア地域研究所特任研究員・シンガポール映画研究家 盛田茂氏  
 講演概要：

立教大学アジア地域研究所特任研究員・シンガポール映画研究家として活躍中の盛田茂さんから、「映画をとおしてみるシンガポールの社会」と題して、シンガポールの歴史や社会の解説、そして近年の映画作品を紹介し映画の世界における新しい潮流、経済成長一辺倒からの転換への兆しなどが講演されました。



## 2016 年度「三井 V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

三井V-Netでは『書き損じなどによる未使用の日本郵政製はがき』や『未使用切手』および『パソコン用の使用済み純正インクカートリッジ』を日ごろより収集し一年ごとにとりまとめて換金のうえ、経済的に恵まれない東南アジアの家庭の子どもたちに基礎教育の機会を提供するための支援金として役立てております。

2015年に三井V-Netの本部(東京)および関西(大阪)・中国(広島)の各支部にお寄せいただいた上記の品々は、公益財団法人『民際センター』が展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金」に「三井V-Net」の名義のもと2016年度分の奨学金として活用させていただきました。おかげさまで前年度とほぼ変わらずに8名ものタイの中学生の学費を援助でき、そのうち2名は本年3月に卒業を迎えました。

ご登録いただいているボランティア会員の皆様はじめ、会員会社の現役社員の方々や三井V-Netのニュースレターやホームページをご覧いただいた多くの一般の皆様にも奨学生に代わりましてあらためて深く感謝申し上げます。

皆様のご理解のもと、ご友人やお知り合いにも広くお声かけいただき心温まるご支援を引き続きお願い申し上げます。



皆様のご協力により本年3月に卒業したタイの女子中学生

## 物品ご提供による支援のお願い

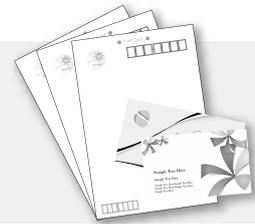
三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

集まった品々は年末に一年分を取りまとめ協力団体を経由して換金のうえ、東南アジア僻地の子供たちの中学就学やインドでの女性の生活向上と農業プロジェクトおよびインドネシアにおける給水・農業の技術指導など各事業の支援に役立てています。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもお声をかけていただければたいへん幸甚でございます。ご協力を心よりお待ちしております。

### ご提供いただきたい物品

- 未使用はがき・書き損じはがき
- 切手(国内外、使用・未使用問わず)
- プリペードカード(未使用のみ)
- 使用済み(純正)インクカートリッジ



### ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて

- 本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F  
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035
- 関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F  
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681
- 中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F  
TEL/FAX: 082-222-5101

# 三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

<b>ボランティア活動会員登録票</b>		(関東地域) 03-5570-8035 FAX (関西地域) 06-4396-8681 (中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
		記入日	西暦 年 月 日
氏名	(フリガナ)	生年月日	西暦 年 月 日
		性別	[ ]男 ・ [ ]女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	-	-	
自宅FAX番号	-	-	
携帯電話番号	-	-	
メールアドレス			
出身企業/勤務先			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [ ] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [ ] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [ ] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [ ] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでの手伝い等)		
	⑤ [ ] 文化・教育(文化施設での手伝い、アジアの児童の奨学金支援)		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[ ] 出身企業の紹介		[ ] ホームページを見て [ ] ニュースレターを見て	
[ ] 知人( )の紹介		[ ] その他( )	

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

## 三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>